

令和5年度 学校評価報告

草加市立瀬崎中学校

(令和6年2月29日作成)

1 学校教育目標	
自らの生き方を考え、実践する生徒の育成『よりよく生きる』 「ま」…学び続ける生徒 「つ」…強い体をもつ生徒 「な」…仲間を思いやる優しい心をもつ生徒 「み」…みんな仲良く笑顔あふれる生徒 「き」…希望をもち夢に向かって努力する生徒	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>1 わかる・できる・伸びる授業を展開し、基礎学力の定着を図り、学力の向上に努める。</p> <p>①「自己肯定感・自己有用感を育む授業改善」</p> <p>②「学習形態の工夫、ICTの活用」</p> <p>③「幼保小中の系統性の理解を深め、ねらいと指導内容を合致させた単元計画、授業展開を構築する」</p> <p>④「授業の5原則」と「学力向上5つの対策」の徹底</p> <p>2 不登校、いじめ問題の未然防止、根絶を目指す取組、道徳教育と教育相談体制の確立、瀬崎中学校区幼保小中・地域・家庭で連携し、安心で安全な学校づくりに努める。</p> <p>3 学習環境を整備し、安全で落ち着いた環境づくりに努める。学習の場にふさわしい掲示・言語環境づくりときれいで使いやすい学校づくりに努める。</p> <p>4 家庭への啓発・連携を積極的に行うとともに、家庭・地域との連携を密にし、期待に応えられる学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が瀬崎中生徒一人ひとりを取り残すことなく、授業改善や対話等でよりよく生きる力を身に付けさせたいという意識を持ち、生徒自ら課題解決能力を身につけ、目指す学校像・生徒像に向けて取り組むことができた。 ○学校、家庭、地域が一体となって校則改定について考えたり、地域と協力した防災訓練を行うなど、地域との協力関係を強めることができた。また学校の各種行事やHP情報や各種便りなどの情報配信メールの活用を行うことができた。 ○基礎学力向上、「基礎・基本」定着のために、長期休業中や定期試験前の補充学習、3教科学力コンテストによる基礎学力の向上、予習・復習等の家庭学習習慣の確立、毎時間のドリル学習を行い徐々に成果が上がってきている。さらに、何らかの理由でやむを得ず学校に登校できない生徒に対して、タブレットを持ち帰り、相談室等の別室にて、オンライン授業等で授業に参加できる形を整えることができた。 ○教育環境面について、安心で安全な学校づくりや、授業規律の確立、生徒自身がルール・マナーを主体的に遵守し落ち着いた学習環境を整え、いじめのない、生徒同士がお互いによさや努力を尊重しあう人間関係、などの高い評価をいただくことができた。この評価を謙虚に受け止め、「よりよく生きる」生徒の育成のために、学校全体で取り組んでいくことが重要であると考えている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全な環境を整えているかについて、生徒評価80.3%（昨年比-7.4%）、保護者評価89.3%（昨年比-2.2%）と校舎の老朽化についての意見が多かった。安全点検を定期的に実施し、修繕を積極的にを行い、教育環境の整備、美化に取り組んでいく。 ●学力・学習面について、朝読書や家庭学習に意欲的に取り組んでいるが、生徒評価75.3%（昨年比-2.7%）、保護者評価83.2%（昨年比+3.4%）と生徒と保護者の認識に差がある。生徒自身、厳しく前向きにとらえている意識が感じられるので、教師として学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けて効果的な指導をしていく。 ●全体的に生徒は積極的にあいさつがよくなってきている（生徒評価95.3%、昨年比-0.5%）が、保護者は生徒が正しい言葉遣いを含めて、昨年度よりもできている（保護者評価86.8%、昨年比+0.1%）と、保護者と生徒の間に認識の差がある。学校や部活動だけでなく、学校外においても、あいさつを自ら行うことを徹底していかねばならないと考えている。そのために、まず教職員が手本を示し、自ら積極的に声掛けや挨拶を元気づけ、目をみて、はっきりと行うとともに、生徒会や学級委員を先頭に「あいさつ運動」、部活動生徒による元気なあいさつの飛び交う学校づくりを行っていく。 ●保護者評価「生徒は体力向上に向け、体育や部活動に意欲的ですか」について、おおよそ意欲的である（87.5%）が、昨年度より上がった（+0.8%）。しかし、生徒評価では昨年度より0.3%下がった。また健康の維持向上にむけ規則正しい食事を心がけ、健康な生活を意識したことについて、保護者評価で昨年度より1.5%向上したのに対して、生徒は-1.6%と課題としてとらえている。引き続き、どのような状況下でも自ら体を積極的に動かし、健康を保持増進させ、体力向上に努めることができるよう、意識の醸成をしていく。 ●昨年度の反省を踏まえ、コロナ禍での学校公開の仕方や三者面談形体の選択制（対面・オンライン）により、保護者が生徒の学校での様子や保護者からご家庭での様子を伝えたりするなどの昨年度よりはできなかったが、保護者の願や要望にお応えすることができなかった。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等 	B	<p>○学校経営目標と方針の徹底のために、今年度は年度当初はコロナまん延防止のため、朝の健康観察徹底による立哨指導を継続していたが、5月以降は立哨指導は継続し、健康観察や出欠連絡はフォームによる入力に簡略化し、職員が短時間で把握しやすいように改善することができた。またすぐメールやアプリ、タブレットによる即連絡など教職員に周知事項の徹底を図る環境づくりを構築することができた。</p> <p>○朝の出欠連絡をフォームにし、保護者配布文書を紙と文書で配布することで、保護者の連絡漏れを防ぐことができた。</p> <p>○校務分掌組織の偏りを年度当初に見直し、負担軽減や働き方改革を意識し、効率的に学校運営をすることができた。</p> <p>○会議時間短縮のために、データ等で事前に資料を配布し会議に事前準備を行い、短縮することができた。</p> <p>○全校での運動会や文化会館でのけやき祭と学年合唱、自然教室や修学旅行など保護者参観型の対面における学校行事を行うことができた。</p> <p>○年度途中から学校公開や授業参観、部活動見学など学校の様子を直にみていただく機会を設けることができた。</p> <p>○小中連携行事について、運動会有志参加、歌声交流会や小学生と語る会など積極的に行うことができた。</p> <p>●教職員の授業時数が多く、補充教員が少ないなど空き時間が少ないことで教材研究や授業準備を時間外にやらざるを得なくなり、時間外勤務在校時間が少し増えた。</p> <p>●教務等が会議内容を職員に正確に周知し、事前に意見や質問に回答を検討しておける工夫する。</p> <p>●校務分掌の精選や行事の精選、会議時間の短縮、適材適所の人員配置を積極的に取り組み、さらに効率的な運営をすることで、業務改善や働き方改革に取り組んでいく。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成 	B	<p>○目指す生徒像にむけて、授業改善を通して「学力の向上」について、学力向上プランの見直しとともに、県学力調査等の結果分析を活かし学習をすすめるようにした。</p> <p>○WEB授業配信やオンライン会議の推進をより一層積極的に行うことができた。</p> <p>●タブレットの活用について、効果的な活用についての研修を今後取り入れることで、授業改善を図っていく。</p>

<p>③保健管理・安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用 	<p>A</p>	<p>○保健計画、安全計画をもとに、保健指導及び安全教育の充実を推進した。</p> <p>○昨年から実施の地域合同「救急救命法研修会」、や避難場開設訓練を実施。AED使用法や心肺蘇生法など、仮設トイレ設置や炊き出しなどを地域の方と共に行った。また、引渡し訓練を実施し、地震の際の避難の想定をすることができた。避難場所として使用できるよう、物品の紹介や市教委によりご指導をいただいた。</p> <p>○危機管理マニュアルを再度更新し、安全点検を確実にし、組織全体で対応するなど、適切に管理することができた。</p> <p>○地域の方と協力して登下校の見回りも行い、地域と一体となって生徒を見守っていく体制づくりができた。</p> <p>●小学校や幼稚園と連携して引渡し訓練を行っていく。</p> <p>●安全計画、危機管理マニュアルを最新の安全防災教育に照らし合わせ、改定し、実際に活かせる避難訓練や引渡し訓練、不審者対応等を想定できるように実施していく。</p>
<p>④情報管理・施設設備管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	<p>A</p>	<p>○個人情報持ち出し簿、タブレット管理簿などで個人情報の管理に努め、校内規定の遵守を行った。また校長・教頭だよりの定期発行（週1回程度）と県教職員事故根絶にむけた資料とともに配布し、日々研鑽することができたことにより、年間通して教職員事故に対する意識の醸成、教職員MOTTO「未来を創ることもたち、未来を育てるわたしたち、未来への責任」を意識して、事故ゼロを達成することができた。</p>
<p>⑤地域との連携 開かれた学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	<p>A</p>	<p>○自治会や町会と連絡を密にし、地域行事にて吹奏楽部が演奏を行い、バザーや祭りに積極的に参加をしたことで、地域住民と中学校、子どもたちとの交流が増え、学校運営についての円滑な理解を深めることができた。また、地域やPTAの学校に対する協力を増やすことができた。</p> <p>○地域や県内における不審者発生時に瞬時に、すぐる配信を行い、警察や児相・近隣小学校と連携して、地域・関係機関とともに地域の安全を見守る環境を構築することができた。</p> <p>○毎月発行「学校だより」は保護者と地域（民生委員、町内会等）に定期配布、保護者すぐる配信し、写真等をカラーで配布するなど、学校の情報を積極的に発信し、学校教育に対する理解と協力を深めることができた。</p> <p>○学校運営協議委員より学校運営についてのご意見、地域と学校の連携、協力の仕方、地域行事や祭礼パトロール参加など、などさまざまなご意見をいただき、学校の実情を把握してもらい、地域と一体となり、地域の願いを含めた学校運営にとりくむことができた。</p> <p>○欠席連絡、学校評価等のアンケート等、ネット集計システムを導入し、教職員の働き方改革の一助となり、回収や集計が迅速になったことで、よりスムーズに保護者の願いを学校運営に反映させやすくなった。</p> <p>○PTA運営委員会等の会議対面で実施することができ、保護者と連携して学校教育を進めることができた。特にボランティアを募り、正門のペンキ塗りや壁清掃、運動会のテントはりなど環境美化のご協力をいただくことができた。</p>

⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	<p>○瀬崎中学校区として目指す子ども像の共有を校区小学校と行い、小中合同研修会、小中連絡会（授業参観と情報交換会）を年に1～2回実施し、小中学校それぞれの授業改善の取組、研究主題や取組の共有、会議等を行うことができた。</p> <p>○小中乗り入れ授業（保体）の取組強化により、中1ギャップの解消、教育相談的な児童の小中連携を図ることができ、小中間の情報交換と連携をよりいっそう深めることができた。</p> <p>○小学校に出向いて、お祭りでの吹奏楽部の演奏、バザー出店、中学3年生による歌声交流会（歌声披露）、小学生と語る会、読み聞かせ会を行うことで小学生が中学校生活に対する期待を高め、将来の具体的なイメージを高めることができた。</p> <p>○新入生保護者説明会を学校公開とともに対面で行うことができた。特に、吹奏楽部の演奏、演劇部による学校生活の紹介は好評で中学校生活に対する不安を払しょくすることができた。またネット上で参加できなかった保護者のために質問受付し、回答することができた。</p> <p>○部活動見学を実施し、各部活動の取組を自由に参観できたことで、新入学生徒や保護者が入学後の生徒のイメージをつかむことができた。</p> <p>●幼稚園、保育園の園児との交流を深めることを今後行っていく。次年度は、運動会や行事見学、避難訓練等、保育体験や実習を取り入れ実施していきたい。</p>
--------------	---	---

(様式2・中学校用②)

草加市立瀬崎中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	B	<p>○おおよそ計画通りに授業時数の確保をすることができた。特に教育計画・指導要領の各教科・領域の授業時数の確保を図り、小中標準カリキュラムとの関連を明確に示すことができた。</p> <p>○学習指導要領の内容をもとに、学校の実態に応じて年間全体計画、指導計画を臨機応変に対応し、予定通り実施することができた。</p> <p>○体調不良等やむを得ず学校に登校できない、早退せざるを得ないときにはタブレットの持ち帰りを行い、個別最適な学びの実現のために、オンライン学習やe-ライブラリーの活用などで、学びを止めない努力をすることができた。</p> <p>●教職員の熱意と工夫により、ほぼ計画通りにできた部分もあったが、オンライン授業が双方向授業ができるように工夫していきたい。以降も、ICTやタブレットの活用を積極的に進めるだけでなく、効果的な活用ができるよう、研修を行い、策を今後も継続して行っていく。</p> <p>●実技教科の授業数の確保を優先し、短縮授業や授業の入れ替えを行っていく。</p>

<p>②教科指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	<p>B</p>	<p>○自主研修や授業改善にむけた研修に教職員全員が取りくみ、学力向上を通じた自己肯定感・有用感の高揚に向け効果的に指導計画の立案、指導方法の改善・工夫に取り組んでいる。</p> <p>○タブレットの活用を授業で積極的に行い、円滑に着実に計画的に進めることができた。</p> <p>○学習支援補助員、少人数学級指導を適切に配置し、だれ一人取り残すことのないよう、学びの充実を行うことができた。</p> <p>○不登校生徒の対応だけでなく、相談室との連携など学習効果を図ることができた。また不登校生徒が教室復帰を目指して相談室からタブレットにより授業に参加することができた。</p> <p>●相談室から教室復帰へのステップとして新たに「学習室」を設け、自由に学習に取り組める環境を整えていく。</p> <p>●言語活動や生徒同士のコミュニケーションがとれるようになってきたが、まだ十分ではない。考え、判断し、行動できる人間育成のために、友達が何を思い、考え、よさがあるか、基本的な人間関係の構築の基本である能力を、授業を通して学ばせたい。</p>
<p>③道徳教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	<p>A</p>	<p>○道徳教育について抜本的改善のために、大学教授より指導をいただき、より「考え、議論する道徳」の実践を全学年で授業改善にむけて取り組むことができた。</p> <p>○道徳部会を中心に教材選定や資料作りを行う中で道徳時数の完全実施を図り、他教科との連携による教科横断的な学習、各教科との関連を図り、生徒一人ひとりの道徳的実践力の向上を図ることができた。</p> <p>○ローテーション授業を進めることでスムーズに授業展開が可能となり、子どもの豊かな心を育成することができた。</p> <p>●授業数の確保について、行事や急な授業変更により別の授業に振り替えざるを得ないことが多かった。振り替えを行い、他の授業数が削られることもあったので、計画的な授業予定、時間数の確保が課題。</p> <p>●校内研修を実施し、さらに道徳教育の充実を図る。「考え、議論する道徳」の共通認識を図り、ICTの効果的な活用方法について教員同士で情報交換をしていく。</p> <p>●扱う題材を熟慮し、計画的に指導するとともに、生徒一人ひとりを大切にされた指導に努め、お互いを認め合い、心を大切にする指導にあたっていく。</p>

<p>④特別活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・生徒会活動 	<p>A</p>	<p>○学級経営は各学級経営計画のもと、計画的に実践することができた。</p> <p>○生徒会活動は、教師の支援を極力減らし、生徒の自主的な運営を行うことができた。特に今年はネットモラルについて、タブレットやスマホの使用の仕方やマナーを生徒と教員で話し合いをすすめ、それらを自分たちで守るだけでなく、よりよい学校生活を送るために、宣誓を各クラスで作成など瀬崎中ルールとして、学校が一つにまとまるきっかけとなった。</p> <p>○生徒会行事は対面を中心に創意工夫し、すべての行事を対面で実施することができた。特に全校生徒を前にした行事ができるようになり、教員と生徒が一体となった。</p> <p>●コロナ禍だったからオンライン…というだけでなく、オンラインの普及にともない、オンラインも活用しながらの学校行事や集会を今後創意工夫をこらして行っていく。</p> <p>●下級生が、しっかりすべての行事を経験することができ、瀬崎中の文化や伝統を継承できる準備が整っているが、まだ未経験の行事もあるので、再度指導が必要である。</p> <p>●集会等での集会指導である「無言移動、無言整列」の徹底が全学年で計れていない。集会指導、生徒指導を中心に指導の仕方を見直していく。</p>
<p>⑤「総合的な学習の時間」の指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	<p>A</p>	<p>○特色ある取組の一つである「性出会い学習」を計画通り行うことができた。</p> <p>○年間を通して、調べる・体験する・まとめる学習を実践させることができた。また、数少ない学校行事の中で成果を収めることができた。</p> <p>○対面とオンラインを使用しながら、工夫して各学年、計画的に対面での実施形態を工夫することができた。</p> <p>●行事計画の精選とともに、行事の復活など生徒にとって有効なものかどうか、再考していく。</p> <p>●地域人材の活用を積極的に行い、ボランティア、地域清掃など地域と密着した取組の検討や、物的資源の活用を含めて年間指導計画に盛り込んでいくようにする。</p>

<p>⑥生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	<p>A</p>	<p>○年初に生徒指導心得（マニュアル）の徹底とともに、年度途中で再度確認し、報・連・相・確認の徹底と共通理解を深める生徒指導をすることができた。</p> <p>○遅刻をしがちな生徒に対して、自発的に生徒指導委員会や生活委員会が中心となり、不定期に朝の立哨指導を行い、生徒自身がよりよい学校にしていこうという文化をつくることができた。</p> <p>○学習規律についても同様、生徒の自治集団づくりにより、生徒同士による徹底を学校全体で取り組み、落ち着いた学習環境をつくることができています。</p> <p>○不用物持ち込みやSNSによるトラブル未然防止のためのポスターを作成するなど生徒の自治集団づくりが実を結び始めた。</p> <p>○教職員が一体となって報告・連絡・相談を密にし、適切に迅速に対応することができた。</p> <p>○保護者から、学校は落ち着いた環境であり、あいさつができ、生徒がまわりを守り、良さを認め合う、いじめ・不登校をなくす指導について評価をいただいた。</p> <p>●気づいたことがあれば、その場で指導をし、生徒指導担当同士で連絡を徹底し、連携して組織的に対応し、指導を行っていく。</p> <p>●あいさつを自ら元氣よくする、自分たちでまわりを守り、認め、いじめ、不登校をなくしてほしいという意見があるので、謙虚に受け止め、あいさつが活発な学校、いじめゼロを目指して取り組んでいく。</p>
<p>⑦キャリア教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的なキャリア教育 ・指導方法の工夫と改善 ・啓発的経験の充実 ・進路情報の収集・活用 ・職場体験活動 	<p>B</p>	<p>○進路だよりを紙とすぐーるでもれなく全学年に配布することができ、1・2年の早い段階から将来のキャリアプランや進路選択、人生設計を意識的に現在の学習と結び付けられることで、普段から学習意欲の向上や進路意識の高揚、自己実現への取組につながる指導ができた。</p> <p>○毎週、進路部会を開催することができ、常に最新の進路情報を共有することができた。</p> <p>○2年生は上級学校訪問を実施し、調べ学習を発表することができた。</p> <p>●まだまだ1・2年生で上級学校に対するイメージがつかきれてない生徒がいるので、進路だよりとともに、3年生で具体的な進路イメージできるように内容を精選して指導していきたい。</p> <p>●職場体験（1年）、を実施できなかったが、調べ学習、新聞づくりにより補充・発表し、成果をあげることができた。さらに生徒一人ひとりが全学年通してキャリア教育を意識して、計画的に進められるようにしたい。</p> <p>●私立出願がネット出願が多く、変化にしっかり対応できるように家庭任せにせず、出願の確実な確認とともに、積極的に見学会や説明会へ参加するよう、より家庭への積極的な働きかけが大切である。</p>

<p>⑧特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	<p>A</p>	<p>○通常学級で特別配慮を要する生徒や日本語が不安な生徒など柔軟に対応し、教育支援室と相談室、SC、SSW等と協力して、家庭訪問や面談など組織的に対応することができた。</p> <p>○教育相談部会で特別に支援が必要な生徒の一覧や個別支援カードを作成し、特別支援コーディネーターを中心に、毎週情報共有を行い、一人ひとりにあった支援を実施することができた。</p> <p>○学校ファームをはじめ、よりよい教育環境の充実のために、敷地内の雑草や樹木剪定作業をするなど奉仕活動を行うことができた。</p> <p>●特別支援教育について、多様な生徒への個別最適な教育環境づくりのため、引き続き研修を深め、一人ひとりの発達段階や家庭環境等について適切な支援ができてきているかを検証していきたい。</p> <p>●通常学級に支援が必要な生徒も多くいるので、発達障害等の理解を深め、個に応じた指導を行えるようにしていく。</p> <p>●教室や廊下掲示をふくめ、ユニバーサルデザイン化をすすめていく。</p>
<p>⑨学校図書館教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	<p>B</p>	<p>○学級文庫を2年ぶりに再開し、朝読書の充実により落ち着いた学習環境づくりに役立てることができた。</p> <p>○司書教諭と図書館司書による図書室の整備がすすみ、昼休みの貸し出しを積極的に行ったことで、本に親しみやすい、充実した経営ができた。</p> <p>○図書館だよりの発行や季節・長期休業に即した蔵書コーナーの設置や掲示物の充実に取り組み、一人への貸し出し数を着実に増やすことができた。</p> <p>○生徒会予算でラミネーターを購入し、本の紹介をより充実させることで、貸し出し数、読書量を増やすことができた。</p> <p>●司書教諭と国語科で仕事分担を明確にしていく。</p> <p>●読書感想文の関係の仕事の割り振りがあいまいであったので明確にしていきたい。</p> <p>●図書室の目的外使用について、テストの別室受験が行われるなど、図書室の機能以外の使われ方をすることが多くあったので、司書教諭と勤務時間が重なり、図書館を開館することができないこともあったため、司書教諭にも年間授業計画等を共有し、図書館開館を計画通りに実施していく。</p>

<p>⑩情報教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	<p>B</p>	<p>○タブレット使用が活発になり、学級閉鎖時のオンライン授業や課題の取組、行事でのライブ配信、登校できない生徒に対する授業配信を行うことができた。特に、オンラインと対面を相互に駆使した学校行事を行うことができた。</p> <p>○学校に通えない生徒に対してオンライン授業を確立することができた。</p> <p>○学校内でのタブレットの取り扱いなどの指導を適切に行うことができた。タブレットの鍵を教材室にも設けることでスムーズな使用ができるようになった。</p> <p>○写真等の加工作業を挟むことで、個人情報をつつ、生徒の活動を発信することができた。</p> <p>●授業や校務において、ICT機器の積極的な活用を図ることができた中で、授業配信等においては双方向授業、それによるタブレットの活用レベルアップのための研修を行い、更なる充実を図る必要がある。また、ICT機器の活用をさらにすすめ、Meetによる会議や授業の配信、教職員の諸連絡等での活用を進め、円滑に正確に教職員の連携を図る必要がある。</p> <p>●次年度から管理職許可権限によるホームページ編集が全職員可能になるので、ホームページ担当分掌の在り方の再考が必要である。</p>
<p>⑪人権教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	<p>B</p>	<p>○性の多様性、生徒指導との関連を深めた教員の理解を深めることができた。</p> <p>○社会の授業を中心に、計画的に人権感覚育成をすすめる、「動画視聴」や「被差別部落や差別等の資料」を通して人権に対する意識の高揚を図った。</p> <p>●身近な人権問題について触れることで家族、本人に対する考え方や、接し方について引き続き教育していく。</p> <p>●多目的トイレの使用について、実際に生徒が周囲の目を気にせず、安全に使用できるように検討していく。</p> <p>●情報分野と連携し、情報モラル教育を引き続き行っていく。特にSNS等による誹謗・中傷、トラブルが絶えない現状を鑑みて、それらの被害を含めた人権問題について、教科・領域の計画に含め、人権擁護の意識の醸成を図る。</p> <p>●いじめや不登校生徒、発達障害や性の多様性に関する生徒指導の在り方について、個別最適な学びの充実のために、研修を深めていく。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	学力の向上	基礎・基本の充実 校内研修	B	<p>○幼保小中一貫教育を通して、校種移行時のスムーズな指導やつまづきなどの情報交換を行うとともに、「標準カリキュラム」などを参考にしながら系統性を持った授業展開を行うことができた。</p> <p>○「自習の三原則」と「授業の五原則」の徹底により、授業規律の確立が向上したことで学力向上につなげることができた。</p> <p>○各教科で小テストや単元テスト、単語テストなど細かく生徒に評価をフィードバックすることで、基礎学力向上や基礎基本の定着をめざすことができた。</p> <p>○自己有用感、自己肯定感を育む授業改善を全教員が自主研修を行ったことで、教え合い、学び合う風土を確立させ、学力向上させる授業改善に努めることができた。</p> <p>●家庭学習の習慣の定着にはまだまだ課題がある。生徒が生涯にわたって学習する意義を生徒自身が見だし、各授業で先生方や教材との出会いを通して、生徒が自発的に学習に取り組んでいけるような課題の設定などを考えていきたい。</p> <p>●小学校と連携し、学習のしおりやルーティンを共有することで、スムーズな校種の接続とともに、家庭学習のやり方を向上させる。</p> <p>●全国・県・市の学力調査の結果をPDCAサイクルで分析し、成長の伸びやつまづきを中心に効果的に指導していく。</p>
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・時間を守る ・学習環境の整備 ・授業の5原則 	A	<p>○「礼をただし」「場を清め」「時を守る」のさらなる定着がみられた。各学年「3分前着席」の声掛けを生活委員や学級委員といった生徒の自治集団組織づくりによって主体的に「よりよく生きる」ための方策を探って、実行することができた。</p> <p>○生徒による発案で朝の登校の立哨指導を生徒自身が呼びかけ、時間を守ろうとする生徒が大幅に増えた。</p> <p>○効果的な掲示物等、学習環境の整備について意識して取り組むことができた。</p> <p>○授業の5原則、自習の3原則がどの教室にも掲示されており、ユニバーサルデザイン化を図ることができた。</p> <p>●生徒同士のふれあいが増えたことにより、生徒間トラブルなど校内が落ち着かない状況も少なからずあった。</p> <p>●集会指導で無言整列、移動を心がけていく。</p> <p>●「3分前着席」や登校指導を生徒を中心に声掛けし生徒自身の手でよりよい学校づくりを行っていく。</p>

健康・体力	<ul style="list-style-type: none"> ・健康集会 ・部活動 ・性教育 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>○各学年「性出会い学習」等で命の大切さや健康に過ごすための意識を高めることができた。</p> <p>○運動会や学総、新人戦などの大会が十分にできるようになり、クラスや学年、部活動の仲間たちと一生懸命取り組むことができた。また体育授業や部活動を通して体力向上とともに豊かな体を育成することができた。</p> <p>●日常的に体を動かし、心身を鍛える意識をもたせ、積極的に運動に関われるように体育授業を通して指導をし、運動習慣の確立に努めていく。</p>
-------	---	---

<p>5 総合評価（学校関係者評価を含む）</p>
<p>○「よりよく生きる」学校教育目標の達成にむけて、自らの生き方を考え、実践する生徒の育成を目指し、幼保小中の目指す生徒像を目標に、さまざまな学習活動を通して教職員で工夫を凝らし、全体的に学校経営・運営を円滑にすすめることができた。</p> <p>○教職員と生徒による朝の立哨指導、保護者による「愛の一声運動」（あいさつ運動）を計画的に実施することができ、一人ひとりの生徒を全教職員で大切に见守り、あいさつや声掛けを丁寧に行うことができたので、「あいさつ日本一」にむけて活気のある学校生活にむけてさらによくしていく。</p> <p>○基礎学力向上にむけて「基礎・基本」の定着のために、長期休業中や定期試験前の放課後ジャンプアップ教室（補充授業）、3教科によるコンテスト実施による基礎学力の向上、予習・復習等の家庭学習の習慣の確立、毎時間短時間の復習と定着を兼ねたドリル学習を行い成果が上がってきている。さらに、体調不良や不登校等の理由により学校に登校できない生徒に対して、タブレットを活用したオンライン授業やイーライブラリー等の自主学習を積極的に行い、形を整えることができた。</p> <p>○「性出会い学習」は、本校の特色ある教育活動であるため、全学年で継続し、より実効性のある取組を実施していく。命の大切さや異性への尊重する態度、ジェンダー等の理解など人権教育に結び付ける成果を上げることができた。</p> <p>○教育環境面について、安心で安全な学校づくりのために、授業規律の確立とともに生徒自身がルール・マナーを主体的に遵守し落ち着いた学習環境を整え、いじめのない、生徒同士がお互いによさや努力を尊重しあう人間関係、などの高い評価をいただくことができた。また、校舎内の修繕や改善が必要とみられる場所についてはすぐに教育委員会と連携し対応することができた。この評価を謙虚に受け止め、今後も「よりよく生きる」生徒の育成のために、学校全体で取り組んでいくことが重要であると考えている。</p> <p>○教職員が一人ひとりの生徒を大事な自分の学校の生徒であることを自覚し、研修に励み、より授業改善して個別最適な学びと他者と協働した学びの実現のために努力しようという意識を持つこと、そして課題解決能力を身につけ、目指す学校像・生徒像に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>○日頃の研修において、「自らの生き方を考え、実践する生徒の育成」を目指し、計画的な自主・教科別研修に取り組むことができた。また幼保小中一貫教育の研究主題である自己肯定感、自己有用感を育む教育の推進を柱に、小中合同研修会や小中連絡会議等を積み上げることで、学校間・教職員間の情報共有だけでなく、積極的に連携することで各校の学校課題が整理できるようになるなど、取組の成果が出始めている。</p> <p>○生徒、保護者、地域との信頼関係がさらに構築され、地域行事への積極的な参加や地域と合同の避難所開設訓練、ボランティアなど地域と結びついた教育活動を実践することができた。（ほかに学校の各種行事やHP情報や各種便りなどの情報配信メールの活用）</p> <p>○埼玉県・全国学力学習状況調査結果から学習の着実な伸びが見られ、学力の向上が図ることができた。今後も生徒の基礎学力の向上を通じた自己肯定感・自己有用感の高揚のために、校内組織で調査を分析し、より充実した学習環境を整備するよう、継続して取り組んでいきたい。</p>

6 次年度の改善策

○校内での取組

- ・生徒指導について、授業規律の確立を通して生徒同士、生徒と教職員との関係も年々向上し、信頼関係が築きあげることができつつある。今後も個別最適な学びの充実にむけて、一人ひとりに寄り添い、自律のための教育支援を実践していく。そのために、教職員が日頃から生徒の発達段階に応じた効果的な指導方法や授業改善に取り組む。特に、学校評価（保護者）で「教師は生徒の実態を理解し指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行っている」、「教師は学力の定着を図る工夫をしている」の項目において、昨年度より高い評価をいただいた。生徒一人ひとりが全員授業やクラスで活躍できることを通して、自己肯定感、自己有用感を育む指導力を発揮できること、そしてオンライン授業をさらに深めていくことで、一人も取り残さず人間育成を推進していく。生徒の実態に応じた、全員への公教育の実現を図ることができるよう、自己実現につながる生徒指導が図れるよう工夫・改善及び研修の取組をしていきたい。
 - ・学力向上については、今後も学校としての最重要課題として捉え、中学校区で一体となって目指す子ども像に近づけるよう育成していく。また、中1ギャップや不登校生徒の撲滅を目指して、自己肯定感や自己有用感を育む教育の実践と研究をさらにすすめ、より「幼保小中一貫」を意識した連携をより深められるよう、継続して15ヶ年の学びのカリキュラムを実践していきたい。
- 授業や学習環境、生徒との関係について、保護者・生徒ともに「先生は子どもの実態を把握し、わかりやすい授業を工夫している」（生徒95.7%（昨年度比-0.3%）保護者87.0%（-0.6%））、「学力の向上を図る工夫をしている」（生徒96.8%（+2.8%）保護者88.2%（+0%））、「子供の間違っただけ行動をきちんと指導してくれる」（保護者93.3%）、「保護者の悩み事や相談に親身に対応してくれる」（生徒94.9%（+1.6%）保護者91.7%）評価をいただいた。一人ひとりの生徒を取り残すことなく、保護者や家庭の願いに寄り添った指導を今後も心がけていく。
- 情報提供について、「学校の様子を保護者や地域に伝えている（各たより等・学校公開）」（生徒89.5%（-7.1%）保護者96.5%（+6%））、「ホームページや連絡メールで適切な情報を提供してくれる」（保護者95.8%）と90%以上の評価をいただいた。「すぐる」やたより、ホームページ等を通してすぐに正確にわかりやすく学校の情報を伝えていきたい。
- 学校生活について、「子供は時間を守ること、学習のルールや学校の決まりを守ることができる」（保護者82.9%、生徒94.9%：12%差）、「子供は進んであいさつをしたり、正しい言葉遣いできている」（保護者81.1%（-4.9%）生徒91.6%（+1.7%）：10.5%）に保護者と生徒の認識の差があり、生徒は自分自身にまだできていないと思う部分が見受けられた。自分を律することができるように、声掛けを行っていく。
- 校内研究組織（学力、健康・体力、豊かな心部会）を中心に組織全体で課題解決に取り組めるよう、一層の研修に励み、学校全体で推進していく。
- 安全な環境を整えているかについて、生徒評価86.9%（昨年度-10%）、保護者評価86.4%（昨年比-2.8%）と校舎の老朽化についてのご意見が多かった。安全点検を定期的実施し、修繕を積極的に行い、教育環境の整備、美化に取り組んでいく。
- 学力・学習面について、朝読書や家庭学習に意欲的に取り組んでいるが、生徒評価59.0%（昨年比-32.8%）、保護者評価65.0%（昨年比-19.2%）と生徒自身は、とても学習意欲があり、授業規律もしっかりしているが、昨年度から朝読書の時間が3/5に減少させたことも大きく影響している。また、自分自身の学校での活動の成果に対する意識がとても高いと前向きにとらえている。同じく保護者も満足しておらず、一人ひとりへの個別最適な学びを求めている意識が感じられるので、教師として学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けて効果的な指導をしていく。その上で「先生は子どもの良いところや努力したところを認めてくれる」（生徒95.2%（+4.0%）保護者91.7%（+3.4%））、「先生は子どもたち一人ひとりの思いや願いを大切にしてくれる」（生徒94.9%（+0.9%）保護者89.5%（+2.4%））と評価が高く、生徒と教師の信頼関係が気づけるよう、一人ひとりを大切に指導していく。
- 全体的に生徒は積極的にあいさつがよくできてはいる（生徒評価91.6%、昨年比+1.7%）が、保護者は生徒が正しい言葉遣いを含めて、生徒とは違い少し低い評価（保護者評価81.1%、昨年比-4.9%）と、保護者と生徒の間に認識の差がある。学校や部活動だけでなく、学校外においても、あいさつを自ら行うことを徹底していかなければならないと考えている。そのために、まず教職員が手本を示し、自ら積極的に声掛けや挨拶を元気よく目を見て、はっきりと行うとともに、教職員が手本を示し、生徒会や学級委員を先頭に「あいさつ運動」、部活動生徒を中心に元気なあいさつの飛び交う学校づくりを行っていく。
- 生徒評価「生徒は体力向上に向け、体育や部活動に意欲的」について、おおよそ意欲的である（87.6%）が、昨年度より上がった（+12.2%）。しかし、保護者評価では昨年度より7.8%下がった。また健康の維持向上にむけ規則正しい食事を心がけ、健康な生活を意識したことについて、保護者評価で昨年度より4.3%、生徒は-8.4%減と課題としてとらえている。引き続き、どのような状況下でも自ら体を積極的に動かし、健康を保持増進させ、体力向上に努めることができるよう、意識の醸成をしていく。新体力テストの分析、本校の体力課題を踏まえた体育授業での補強運動の実施などを行っていくことで学校独自の運動プログラムの開発や運動習慣確立のための業間運動、なわとびなどの軽運動をはじめ体力の向上、及び体力課題を解決するための方策を生徒自身が選択していけるように、指導をしていく。